

平成31年度
事業報告書

社会福祉法人スキーム福祉の会

平成31年度事業報告書

I. 総括

平成31年度は全体を通して大きな出来事はなく順調に事業を進めることが出来ました。10月には職員の離職防止、処遇改善を図るべく介護職員等特定処遇改善加算の算定を決定しました。職員のモチベーションアップに繋がればと考えています。特養部門においては、昨年末から1月にかけて一部のご利用者及び職員がインフルエンザに罹患したことにより、入院が相次ぎ稼働率に影響がございましたが、現在は平常に戻っております。ユニット型特養については入院者も最小限に抑えることができ、平均稼働率も99%を超えるなど、目標値であります97.5%を大きく上回る事が出来ました。短期入所生活介護については、体調不良等、利用者のキャンセルが相次ぎ平均稼働率は年間目標値の82.5%を下回ってしまいましたが、現在は90%を維持しております。在宅部門については、通所介護の平均稼働率が80%と目標値の82.5%を下回ってしまいましたが、現在は90%以上を維持しており、稼働率は好調に推移しています。

平成31年度の重点取組5項目について以下報告します。

1. サービスの質の向上

特養部門においては、各種記録や24時間シートを活用し、ご入居者の情報収集に力を注ぎました。その情報をもとに各種会議やカンファレンスにて多職種での専門的な意見を出し合い、介護支援計画の立案、実践、確認、見直しを行うことで、看取り介護も含めてより個別的で専門的な介護が実践出来るように努めました。

在宅部門においてもご家族、ケアマネジャー、職員間の情報共有に努め、日々の申し送りや会議を利用して、ご利用者の状態把握を徹底し、ご利用者個人々のニーズに沿ったサービス提供に繋げることができました。

2. 組織の活性化

特養部門では、主任・リーダーの育成に力を注ぎました。役職者としての役割・責任を再認識させ、担当ユニットのまとめ役として職員と一緒に考え、また自らも考えることで課題解決や、取り組みが行っていきけるよう努めました。

在宅部門のデイサービスにおいては、職員全体の底上げを図るべく、「標準的介護」が提供できるよう、月2回の勉強会を開催し、利用者の状態把握と個々の利用者に提供する介助方法の統一を図りました。まだ全てのご利用者の分析が終了していないので今後も部門をあげて「標準的介護」の実践に取り組みます。

3. 人材の育成

特養部門では、施設内外の研修へ積極的に参加を促し、その内容を研修参加者が各種会議等で詳細に伝達を行うことにより、職員全体の育成を図ることができるよう努めました。また、日頃から問いかけを行い、科学的介護に基づいた上でその援助を行う根拠を自ら考えて行動・提案ができるよう、人材の育成を図って参りました。

在宅部門のデイサービスにおいても、根拠に基づく介護の習慣づけができるよう、勉強会や日々

の反省会で職員に促しを行った結果、自発的な発言はまだ少ないですが、自分なりの考えや根拠を示しての発言が少しずつ出来るようになりました。

4. リスクマネジメント

特養部門、在宅部門ともに新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染防止を図るべく、施設として対策会議を頻回に開催し、その決定内容や日頃からの注意事項についてをグループラインや掲示板を活用し、全職員に周知徹底出来るように努めました。併せて、ご利用者家族へも随時、状況報告及び対策へのご協力をお願いする文書を送付し、感染予防に対する安全対策の徹底を図りました。

また、介助中の介護事故等の発生を予防できるよう、ヒヤリハットをもとに分析を行いました。大きな事故が発生しないように各部門で対応策について協議し、事故・アクシデントの防止に努めました。

5. 防災対策

年に3回、昼夜想定 of 火災訓練と年1回の土砂災害訓練を実施し、職員への防災意識の向上に努めました。また、総社市主催の消火から人命救助までをいかにスムーズに行えるかを競うファイヤーセービング大会に施設から男・女1チームが出場し、男子が3位、女子が5位に入賞という好成績を収めることが出来ました。

6. 地域貢献（地域交流・貢献委員会）

ふくしネット総社事業部会の取り組みとして、10月26日にフードドライブをコープ総社東において実施しました。事業部会メンバーの職員1名が、当日の役員として参加し、532品目、総重量186kgの寄贈を得ることができました。一方、ふくしネット総社の新規事業として、子ども食堂の開設を目指し事業部会において検討を重ねてきました。開催場所としてののんびり笑家の活用を要請されていましたが、具体化に向けて「そうじゃ食堂くうねるあそぶ」を9月29日に見学をしたところ、取り組み内容やスタッフ陣等において、ふくしネット総社で実施することが困難であると判断され、こども食堂の実施を検討している個人や団体を側面から支援するという取り組みに軌道修正されました。このため、のんびり笑家跡地の活用について具体的方向性を決定することができませんでした。

II. 職員構成等

(令和2年3月31日現在)

事業所名	職種	員数
特別養護老人ホーム	施設長	1名（ケアハウス施設長兼務）
	生活相談員	2名（内ショートステイ1名）
	特養部長	1名
	機能訓練指導員	1名
	看護職員	7名（内パート2名）

	介護職員 管理栄養士 介護支援専門員 用務員	45名（内パート4名） 1名 1名 1名
デイサービスセンター	管理者 生活相談員 看護職員 機能訓練指導員 介護職員	1名（兼務 1名 生活相談員） 2名（兼務 2名 在宅課長） 2名（兼務 2名 機能訓練指導員） 2名（兼務 2名 看護職員） 8名（内パート2名）
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	4名（兼務 1名 管理者（内パート1名））
ケアハウス	管理者 生活相談員 介護職員	1名（特養施設長兼務） 1名 2名（内パート1名）
地域包括支援センター	主任介護支援専門員 看護師 社会福祉士 支援計画担当者	1名（管理者兼務） 1名 1名 2名
全事業所兼務	事務員	2名（全事業所共通）

在職職員の資格取得状況（取得者数は重複含む）

資格名	取得者数	所属別	
施設長	2名	特養	2
看護師	6名	特養	4
		在宅	2
准看護師	4名	特養	3
		在宅	1
介護福祉士	65名	特養	50
		在宅	15
社会福祉士	10名	特養	2
		在宅	8
作業療法士	1名	特養	1
精神保健福祉士	2名		在宅
介護支援専門員	15名	特養	4
		在宅	11
主任介護支援専門員	2名		在宅
社会福祉主事	24名	特養	15
		在宅	9
管理栄養士	1名	特養	1

Ⅲ. 社会福祉法人スキーム福祉の会 理事会・評議員会 開催状況 (理事会)

開催日	出席者	主な議決事項
R1. 6. 6	理事 6名	賞与引当金の繰入れについて

	監事 2名	平成30年度事業報告について 平成30年度収入支出決算について 定時評議員会の日時・場所・議案等について
R1. 6. 21	理事 6名 監事 1名	理事長の互選について
R1. 9. 19	理事 6名 監事 2名	職員給与規程の一部変更について 平成31年度収入支出第一次補正予算（案）について 評議員会の日時・場所・議案等について
R1. 12. 19	理事 6名 監事 2名	理事・監事の選任候補者について 評議員選任候補者の推薦について 平成31年度収入支出第二次補正予算（案）について 評議員会の日時・場所・議案等について
R1. 1. 23	理事 6名 監事 2名	理事・監事の選任候補者について 評議員選任候補者の推薦について 評議員会の日時・場所・議案等について
R2. 3. 19	理事 5名 監事 2名	平成31年度第3次収入支出補正予算（案）について 定款施行細則の一部変更について 役員及び評議員等の報酬等に関する規程の変更について 職員給与規程の一部変更について 令和2年度事業計画（案）について 令和2年度収入支出予算（案）について 評議員会の日時・場所・議案等について

(評議員会)

開催日	出席者	主な議決事項
R1. 6. 21	評議員 7名 監事 2名	賞与引当金の繰入れについて 平成30年度事業報告について 平成30年度収入支出決算について 理事選任候補者について 監事選任候補者について
R1. 9. 27	評議員 7名	平成31年度収入支出第一次補正予算（案）について
R2. 1. 16	評議員 6名	平成31年度収入支出第二次補正予算（案）について
R2. 3. 27	評議員 7名	平成31年度第3次収入支出補正予算（案）について 定款施行細則の一部変更について 役員及び評議員等の報酬等に関する規程の変更について 職員給与規程の一部変更について 令和2年度事業計画（案）について 令和2年度収入支出決算（案）について

IV. 事業所別報告

1. 管理・運営部門

1. 防災教育及び訓練

実施日	訓練内容
R1.7.4	昼間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練
R1.11.7	夜間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練
R1.11.14	土砂災害訓練 通報、避難誘導、伝達訓練

2. 職員研修

①施設内研修

研修月	研修名	出席者	講師等
4月19日	就業規則について（服務規則） 防災マニュアルについて	51名 57%	竹下昌彦施設長代理
5月	身体拘束について	78名 88%	各ユニット職員
6月21日	障がい理解と関わり	48名 54%	総社市社会福祉協議会 障がい者基幹相談支援センター 山田 新二 氏
8月23日	意思決定支援（ACP）	45名 51%	あさのクリニック 緩和ケア認定看護師 大塚 美智子 氏
9月27日	口腔ケアに関する研修	50名 56%	吉備路歯科クリニック 清田院長 石飛歯科衛生士
10月9日 10月23日	救命救急講習	64名 72%	総社市消防署 救急隊
11月15日	防災マニュアルについて 身体拘束について	52名 58%	小倉事務課長 佐々木相談員
12月	感染症について	72名 81%	各ユニット職員
1月17日	車両運転時・乗降時の安全確保 介護事故防止（KYT）	37名 42%	特養相談員 佐々木
2月21日	認知症ケア研修	48名 54%	地域包括支援センター （大西・佐々木・檜村）

※施設内職員研修も定着し、平均出席率は 61.3%となっている。

②施設外研修

全国・岡山県老協・岡山県社協や各種団体が開催する各種研修会へ年間 75 回、延べ参加人数 106 名が参加致しました。特に平成 31 年度は、制度改正に伴う研修や各種専門分野のスキルアップ研修へ重点的に参加してまいりました。

1. 特別養護老人ホーム（従来型）

丁寧な介護、細やかな支援を心がけ、一人ひとりのニーズに沿った援助ができるよう努めました。また日常生活において、ご入居者が楽しみを持って生活できるよう、季節ごとの行事の実施などにより、笑顔でお過ごし頂けるよう努めてまいりました。

1. サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・ご入居者の一番身近な存在の介護職員からの情報に加え、記録類や多職種からの様々な情報を収集してご入居者の個別のニーズを把握し、介護支援計画の立案、実践、確認、見直しを行って一人ひとりに合わせたケアマネジメントに努めました。
- ・医療・介護連携シートの充実と活用により、入退院時の情報共有をスムーズかつ正確に行えるようにしました。また、新規ご入居者についても連携シートで多職種間の情報共有を図りました。
- ・介護支援専門員、生活相談員が中心となり、新任介護リーダー、および次期リーダーとなり得る介護職員を対象に、リーダーシップや職員の指導についてなどの勉強会を開催することでサービスの質の向上に努めました。
- ・入所希望者の事前面談を行い、日頃の状態、本人、家族の意向を把握することで入所時から適正なサービスが提供できるよう情報収集に努めました。また、ご入居者の状態について、多職種連携し、把握することで退所時の空床期間の軽減に努め、安定した稼働率の確保を行いました。

〈看護〉

- ・縦パスシートを作成・活用することで問題点を見つけだし、多職種と連携してケアを行うことができました。また看護師としてどのようにアプローチをするか考え、行動することができました。
- ・ご家族からご入居者に対する思いを聞きとり、医療機関を受診する際に医師に家族からの思いを伝え、ご入居者にとってより良い医療を提供することに努めました。

〈介護〉

- ・ご入居者の状況の変化に合わせて介護士が多職種に発信し、協議することができました。現場で知り得た情報を申し送り・生活記録に記載するなど活用し、多職種間で情報共有し連携を図ることができました。
- ・職員の腰痛予防と入居者の機能向上のためにスカイリフトを購入しました。勉強会や職員同

士の練習を重ね、対象者を3名選定し現在使用しています。来年度に向け更に対象者を増やし、活用していきたいと思ひます。

〈栄養（給食）〉

- ・身体機能や看取りの方等、ご利用者の状態に合わせ、ご家族・多職種と連携し個別に対応できました。
- ・握り寿司やミニ夏祭りなどの実演イベントを実施しました。
- ・感染症・褥瘡委員会やカンファレンス会議を利用し、状態や食形態、補助食品について個別に対応しました。

〈機能訓練〉

- ・他職種が集まるカンファレンスを定期開催する事で、各々が感じる疑問点の早期解決に努め、今後のケアの方向性をまとめるなど、職種を問わず統一したケアの提供に努めました。入院や怪我などによって今まで提供してきたケアに不具合が生じる場合には、更新月や回数に関わらず早期にカンファレンスを実施しました。
- ・申し送り記録の閲覧による確認と当日出勤者への聞き取りによる体調把握を併せ、他職種間で情報を共有しながら機能訓練を実施しました。
- ・外部研修で学んだ事の研修報告を行いました。簡潔にまとめた資料を配布する事で、理解を得やすくすると共に、参加者が考えを深めるきっかけ作りとなる様に働きかけました。また、文献や抄録からリハビリに関する最新情報を収集すると共に、インターネットV動画を活用してポジショニングや体位変換等、動きを伴う介助のポイントについての知識を深めました。動画活用は今後も継続していきたいと思ひます。

2. 組織の活性化

- ・主任・リーダー会議にて、リーダーとしての役割の理解促進を図り、職員に対して適切な助言や指導を実施できるよう育成して参りました。また、日頃から上司との相談や指導を受け、その都度課題解決に向けて一緒に考え、また自らも考えることで取り組むことができるよう推進を図って参りました。
- ・毎月のユニット会議や看護会議では、各自が思つたこと、考えたことを発言し易い雰囲気作りに努め、よく話し合ったうえで多職種が協同し、より良いチームケアを推進して参りました。（看護）

3. 人材の育成

- ・施設内研修への参加を働きかけるとともに、業務等で参加できなかった職員に対して、各ユニット会議等を活用して伝達を行いました。また、施設外研修にも積極的に参加を促し、参加者が各会議等で伝達することにより、全員の資質向上に努めて参りました。また、「なぜその援助を行うのか」という根拠を自ら考えて行動・提案できるよう、日頃から適切な問いかけを行うことで育成を図って参りました。
- ・新任介護リーダー及び次期リーダー候補となり得る介護職員を対象にリーダー育成について

2ヵ月に1回、介護力向上勉強会を開催し、職員の技術・知識の向上に努めました。(介護)

4. リスクマネジメント

- ・身体拘束の廃止については、1名の方の抑制中止を図ることができました。継続中の方に関しても可能な限り廃止できるよう、会議を重ねて参りました。また、介護事故の未然防止や再発防止に向けて、ヒヤリハット報告書を活用して事故発生の原因を探り、改善を図りました。更に感染症蔓延防止を目指し、新型コロナウイルスはもとよりその他感染症においても、周囲の発症状況等を勘案して面会制限等の措置を速やかに実施して参りました。その上で、身体拘束廃止、事故防止、感染症予防の知識や技術の獲得に向けた研修を実施して参りました。
- ・多職種連携によりご入居者の体調不良時や急変時に迅速に対応することができるよう努めました。また、1月にインフルエンザの発症がありましたが、二次感染なく最小限に抑えることができました。(看護)
- ・ユニット会議の場を活用し、ヒヤリハット報告書の集計を基に分析を行い、ご入居者に適した改善策になっているかの再確認と振り返りを行うことができました。しかし、骨折事故が3件あったため、今後も引き続きご入居者の生活動作を把握し事故防止に努めていきたいと思えます。(介護)

5. 防災対策

- ・防災訓練等に可能な限り多くの職員を参加させ、防災意識の向上と万が一の事態への対応方法について学んで参りました。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月7日(日)	お花見会(家族懇談会)	山手合戦太鼓披露・会食・散策 家族との懇談会
5月18日(土)	大根劇団 慰問公演	大根劇団による公演
6月20日(木)	運動会	チーム対抗の運動会
8月30日(金)	夏祭り	ユニットごとに屋台・出店を楽しむ
9月16日(月)	敬老会	来賓を招き、米寿・百歳以上のお祝い 小寺古典獅子舞披露
11月18日(月)	清音放課後児童クラブ交流会	地域の子供との交流
12月22日(日)	クリスマス会	職員による催し物 プレゼント
1月7日(火)	餅つき会	ユニットごとに餅つき
2月8日(土)	節分豆まき	節分の豆まき

苦情状況

発生月日	内容	対応
なし		

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和2年3月31日現在）

要介護度		1	2	3	4	5	計
総社市	男	0	0	1	5	7	13
	女	0	0	5	11	12	28
	小計	0	0	6	16	19	41
岡山市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
倉敷市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	2	3	5
	小計	0	0	0	2	3	5
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	1	2
	小計	0	0	0	1	1	2
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
井原市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	0	0	0	1
	小計	0	1	0	0	0	1
計	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	6	19	24	50

① 年齢構成（最高年齢：104歳、最少年齢：62歳、平均年齢：87.4歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100 ～	計
男性	0	1	2	4	4	1	1	0	0	13
女性	1	0	0	2	3	10	13	6	2	37
合計	1	1	2	6	7	11	14	6	2	50

② 年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	1	0	2	1	1	2	1	0	2	1
退所	0	0	1	0	2	1	1	2	1	0	2	1

③ 退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
3名	0名	0名	8名	1(名)

(2) 稼働状況 (稼働率：%)

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	1,440	1,391	1,479	1,542	1,508	1,475	1,515	1,482	1,522	1,502	1,368	1,481	1,475
ベッド稼働率	96.0 (94.1)	89.7 (96.9)	98.6 (96.7)	99.5 (102.2)	97.3 (98.0)	98.3 (98.0)	97.7 (99.0)	98.8 (98.1)	98.2 (98.5)	96.9 (95.7)	94.3 (96.1)	95.5 (96.8)	96.7 (97.5)

() は平成 30 年度

(3) ショートステイ稼働状況 (稼働率：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	483	542	515	544	531	483	515	505	475	455	445	563	504
ベッド稼働率	80.5 (83.8)	87.4 (83.7)	85.8 (88.7)	87.7 (100.8)	85.6 (102.1)	80.5 (90.8)	83.1 (89.8)	84.2 (87.7)	76.6 (89.8)	73.4 (86.6)	76.7 (89.1)	90.8 (78.7)	82.7 (89.3)

() 内は平成 30 年度

(4) 待機者の状況 (※従来型とユニット両施設希望者も含む。)

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	15	35	118	151	75	394
倉敷市	5	19	21	20	14	79
岡山市	1	4	3	7	4	19
高梁市	2	4	4	1	1	12
新見市	0	0	0	1	2	3
井原市	0	2	2	0	2	6
真庭市	0	1	2	2	1	6
矢掛町	0	2	3	1	0	6
浅口市	0	1	0	0	0	1

津山市	0	0	1	0	0	1
吉備中央町	1	2	0	0	0	3
その他	1	1	3	1	2	8
合計	25	71	157	184	101	538

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当	10月	ふれあい祭り
5月	おやつ作り	11月	おやつ作り
6月	おやつ作り	12月	クリスマス会お弁当
7月	七夕 そうめん流し	1月	握り寿司
8月	ミニ夏祭り かき氷	2月	握り寿司
9月	敬老会	3月	ひな祭り

2. 特別養護老人ホーム（ユニット型）

24時間シートの完成を目指した1年でした。24時間シートを活用し、入居者一人ひとりの日課や意向が、誰が見ても分かりやすくなりました。来年度に向け、更に活用しやすいシートの作成を目指します。

1. サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・ご入居者の一番身近な存在の介護職員からの情報に加え、記録類や多職種からの様々な情報を収集してご入居者の個別のニーズを把握し、介護支援計画の立案、実践、確認、見直しを行って一人ひとりに合わせたケアマネジメントに努めました。
- ・24時間シートを完成させ、ユニットごとの日課の一覧表と意向の一覧表を作成しました。これらを活用することでご入居者本人やご家族の意向、生活習慣を情報共有し把握して、ケアの方法を統一することに努めました。
- ・医療・介護連携シートの充実と活用により、入退院時の情報共有をスムーズかつ正確に行えるようにしました。また、新規入居者についても連携シートで多職種間の情報共有を図りました。
- ・介護支援専門員・生活相談員が中心となり、新任介護リーダー▽および次期リーダーとなり得る介護職員を対象に、リーダーシップや職員の指導についてなどの勉強会を開催することでサービスの質の向上に努めました。
- ・看取りケアの開始時期についてご家族、医師、看護師、生活相談員との話し合いを持ち、ご家族の意向、医療の面から協議して決定することができました。開始時期を検討する前にお亡くなりになった方もおられたので、協力病院と連携し、情報共有して、適切な開始時期を見極めることを今後の課題として取り組みます。

〈看護〉

- ・縦パスシートを作成・活用することで問題点を見つけだし、多職種と連携してケアを行うこ

とができました。また看護師としてどのようにアプローチをするか考え行動することができました。

- ・ご家族よりご入居者に対する思いを聞きとり、医療機関を受診する際に医師にご家族の思いを伝え、ご入居者にとってより良い医療を提供することに努めました。

〈介護〉

- ・H30 年度に実施したユニットケア推進勉強会によりユニットケアの理解度や、定着の程度をユニット会議で振り返り、実施できていること・できないことの評価をしながら職員の資質向上に努めました。
- ・ご入居者の希望や習慣を把握し、統一したケアが提供できるように 24 時間シートの完成と活用を目指しました。24 時間シートの完成によりご入居者の望む暮らしの可視化が実現しました。また日課の一覧表を作成することで、ユニット内外の職員がご入居者の必要なケアを把握できるようになりました。今後は 24 時間シートや一覧表を活用しやすい様式に改良することで、24 時間シート作成に関わる職員の負担を減らすことを課題として取り組んで参ります。

〈栄養（給食）〉

- ・身体機能や看取りの方等、ご利用者の状態に合わせ、ご家族・多職種と連携し個別に対応できました。
- ・握り寿司やミニ夏祭りなどの実演イベントを実施しました。
- ・感染症・褥瘡委員会やカンファレンス会議を利用し、状態や食形態、補助食品について個別に対応しました。

〈機能訓練〉

- ・他職種が集まるカンファレンスを定期開催する事で、各々が感じる疑問点の早期解決に努め、今後のケアの方向性をまとめるなど、職種を問わず統一したケアの提供に努めました。入院や怪我などによって今までの提供してきたケアに不具合が生じる場合には、更新月や回数に関わらず早期にカンファレンスを実施しました。
- ・申し送り記録の閲覧による確認と、当日出勤者への聞き取りによる体調把握を併せ、他職種間で情報を共有しながら機能訓練を実施しました。
- ・外部研修で学んだ事の報告を行いました。簡潔にまとめた資料を配布する事で、理解を得やすくすると共に、参加者が考えを深めるきっかけ作りとなる様に働きかけました。また、文献や抄録からリハビリに関する最新情報を収集すると共に、インターネット動画を活用してポジショニングや体位変換等動きを伴う介助のポイントについての知識を深めました。動画活用は今後も継続していきたいと思っております。

2. 組織の活性化

- ・主任・リーダー会議にて、リーダーとしての役割の理解促進を図り、職員に対して適切な助言や指導を実施できるよう育成して参りました。また、日頃から上司との相談や指導を受け、その都度課題解決に向けて一緒に考え、また自らも考えることで取り組むことができるよう推進を図って参りました。
- ・毎月のユニット会議や看護会議では、各自が思ったこと、考えたことを発言し易い雰囲気作りに努め、よく話し合ったうえで多職種が協同し、より良いチームケアを推進して参りました。(看護)

3. 人材の育成

- ・施設内研修への参加を働きかけるとともに、業務等で参加できなかった職員に対して、各ユニット会議等を活用して伝達を行いました。また、施設外研修にも積極的に参加を促し、参加者が各会議等で伝達することにより、全員の資質向上に努めて参りました。
また、「なぜその援助を行うのか」という根拠を自ら考えて行動・提案できるよう、日頃から適切な問いかけを行うことで育成を図って参りました。

4. リスクマネジメント

- ・身体拘束の廃止については、継続中の方に関して可能な限り廃止できるよう会議を重ねて参りましたが、今年度は抑制中止者はありませんでした。また、介護事故の未然防止や再発防止に向けて、ヒヤリハット報告書を活用して事故発生の原因を探り、改善を図りました。更に感染症蔓延防止を目指し、新型コロナウイルスはもとよりその他感染症においても、周囲の発症状況等を勘案して面会制限等の措置を速やかに実施して参りました。その上で、身体拘束廃止、事故防止、感染症予防の知識や技術の獲得に向けた研修を実施して参りました。
- ・多職種連携によりご入居者の体調不良時や急変時に迅速に対応することができるよう努めました。また、1月にはインフルエンザの発症がありましたが、二次感染なく最小限に抑えることができました。(看護)

5. 防災対策

- ・防災訓練等に可能な限り多くの職員を参加させ、防災意識の向上と万一の事態への対応方法について学んで参りました。

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者(令和2年3月31日現在)

要介護度		1	2	3	4	5	計
総社市	男	0	0	1	4	4	9
	女	0	0	4	7	7	18
	小計	0	0	5	11	11	27

岡山市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
倉敷市	男	0	0	0	0	2	2
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	3	3
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
井原市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
計	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	5	11	14	30

④ 年齢構成（最高年齢：105歳、最少年齢：76歳、平均年齢：89.3歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100 ～	計
男性	0	0	0	2	1	3	4	1	0	11
女性	0	0	0	0	4	4	7	3	1	19
合計	0	0	0	2	5	7	11	4	1	30

③年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	2	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
退所	1	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0

④退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
1名	0名	0名	5名	3(名)

(2) 稼働状況 (稼働率 : %)

ユニット型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	871	930	900	927	921	898	924	900	926	900	870	930	908
ベッド稼働率	96.8 (96.2)	100.0 (98.6)	100.0 (98.3)	99.7 (98.7)	99.0 (97.0)	99.8 (96.8)	99.4 (97.4)	100.0 (95.8)	99.6 (94.3)	96.8 (94.5)	100.0 (97.5)	100.0 (95.2)	99.2 (96.7)

() 内は平成 30 年度

(4) 待機者の状況 (※従来型とユニット両施設希望者も含む。)

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	6	19	48	73	39	185
倉敷市	2	10	11	7	8	38
岡山市	1	3	2	5	3	14
高梁市	2	4	4	1	4	15
新見市	0	0	0	0	3	3
井原市	0	1	1	1	0	3
真庭市	0	0	0	0	1	1
矢掛町	0	1	0	1	0	2
浅口市	0	1	0	0	0	1
津山市	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	1	0	0	0	0	1
その他	1	1	3	2	2	9
合計	13	40	69	90	60	272

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当	10月	ふれあい祭り
5月	おやつ作り	11月	おやつ作り
6月	おやつ作り	12月	クリスマス会
7月	七夕 そうめん流し	1月	握り寿司
8月	ミニ夏まつり かき氷	2月	握り寿司
9月	敬老会	3月	ひな祭り

3. G&Rデイサービスセンター

稼働率 74.6%で今年度が始まり、以降 76.0%間を推移しながら 8月を迎えました。稼働率が低迷している現状を打破すべく、日常生活支援総合事業の緩和型デイサービス参入への取り組みを開始したのですが、年が明けてから新規利用の依頼が急増し、緩和型デイサービスの受け入れ枠を確保する事が難しくなった為、実施に至らず今年度の終了を迎えました。平均稼働率

は 80.0%と目標達成する事は出来ませんでした。3月の稼働率は 91.4%と過去最高の数値を達成しました。

また、サービス面においては、機能訓練や科学的介護の実践等の質の向上に取り組みました。今年度より開始した個別機能訓練では、一定のレベルでの安定した訓練の提供や、職員の身体機能の観察力の向上に繋げることができました。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

利用中の小さな体調不良、着替えや持ち物に関する事等細かいことでもこまめに家族へ発信することで意向の確認を行うと同時にケアマネジャーへも報告を行いました。また、情報の共有と連携を度々行うことでそれぞれの意見や考えを聞く機会を多く持つことができたことで、関係構築に繋がったのではないかと思います。併せてご家族から得られた意向や想いを申し送りや会議等で職員全員で共有し、ご家族ご利用者のニーズに沿ったサービス提供に繋げることができました。

〈看護〉

利用時には必ずバイタルチェックを行い、一日を通しての健康状態の把握と異常の早期発見に努めました。異常時や報告を迅速・細やかに行ったことで、必要な対応変更や多職種での情報共有を常に行うことができ、在宅生活継続の問題発生に対して積極的に対応できたと思います。機能訓練では、個々のご利用者に適した計画を作成・実施し、身体機能の把握と適切な運動の提供を行った結果、ご利用者は高齢者なりにも「動ける体」を維持することができました。

〈介護〉

ご利用者数が多く、業務に追われることからどうしても「待つ」ことが難しい場面が多くありました。してしまうことが多かったことは、ご利用者の残存機能の維持の妨げになったと思います。「見る・聴く」ことに関しては、ご利用者の身体的異常の早期発見や、若かりし頃の話や好きなもの話等を多く聞くことができました。しかし、ご利用者の話をモチベーションにまで繋げるところまではできたとはいえず、今後の課題です。

2. 組織の活性化

収集した情報は、反省会やデイ会議等にて職員間での共有及び検討を図る事で、一貫したサービスの提供を実施しました。また、「標準的介護」が提供出来る様、勉強会にて利用者の状態把握と個々の利用者に提供する介助方法の統一を図りました。全利用者の分析検討を終了していないので、継続して「標準的介護」の実施に努めていきます。

3. 人材の育成

知識・技術の向上については、参加予定だった研修が新型コロナ肺炎感染予防の為中止になってしまうことが多く、外部研修による知識の習得は今年度はできていないと言わざるを得ま

せん。今年度かなり不足した分、来年度の優先課題であると考えています。毎月実施している勉強会では「考える事」について、日々の反省会等では「根拠を持って取り組む事」についての習慣づけを昨年度より継続して実施した結果、自発的な発言はまだまだ少ないのですが、自分なりの考えや根拠を添えての発言がみられるようになりました。

また、職員間や利用者に対しての言葉遣い等、接遇向上に取り組んで参りましたが、多忙時の言葉の乱れ等があり、不十分な状態です。来年度も継続して言葉遣いを含めた接遇技術の向上に取り組み、質の高いサービスが提供できるように努めていきます。

4. リスクマネジメント

交通事故予防については、朝礼時に安全運転に努める注意喚起を行うと共に、各職員の運転技術を考慮した送迎配置を行ったところ、対人対物事故はなく、年度を通して脱輪2件のみという結果となりました。

感染症対策においては、昨年度インフルエンザ発症者が多発した経験を活かし、今年度は車両内や施設内の消毒を早い時期から始めた事で、インフルエンザ発症・感染者0名で終える事が出来ました。また、新型コロナウイルス感染症に対しても、手洗いや手指消毒、物品の管理・消毒等素早い準備と対応を行うことができました。

介護事故発生防止については、ヒヤリハットが出た際、発生原因を徹底的に追及し、確実に実行できる改善策の策定と実施に努めました。また、デイ会議ではヒヤリハットの振り返りを行い、改善策の実施が出来ているかの確認及び改善策の修正を図り、再発防止に努めた結果同じ内容でのヒヤリハットが発生することはありませんでした。

5. 防災対策

施設全体で行われる土砂災害を想定した避難訓練及び火災を想定した避難訓練に参加しました。訓練の為の訓練ではなく、実際に起こった場合を想定した訓練を位置付け、スムーズに訓練を終える事が出来ました。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	じゃが芋ドーナツで人生見通し 良し！	じゃが芋を使ったドーナツを作り食べる
5月	うどんは好きですか？ 好きな薬味はな～に？	粉からうどんを作り、薬味を選んで食べる
6月	散らし寿司作り	散らし寿司を作り食べる
7月	夏だよ！祭りだよ！全員集合！	盆踊りやのど自慢、屋台等夏祭りを楽しむ
8月	涼しさ満点！そうめん流し	笹船を流しキャッチするウォーミングアップの後そうめん流しを楽しむ
9月	「私の知らない世界」 ～こんな顔見た事ない！～	利用者の活動的な写真（1年分から抜粋）をアルバムにし持ち帰る。

10月	第二回G&R運動会	チームに分かれ、種目毎に競い合う
11月	秋は芸術！子供神楽鑑賞会	成羽備中神楽育成会による備中神楽を鑑賞
12月	歌う！福引忘年会	紅白に分かれ歌合戦や福引イベント、年越しそばを食べる
1月	新春 ぜんざいで万歳	餅をつき、素手で丸めぜんざいにして食べる
2月	豆に抱かれて	鬼に豆をまき、福の神から福の種を貰う
3月	野点の会	花を活け鑑賞しながら抹茶を飲む

苦情状況

発生日	内容	対応
なし		

4. 居宅介護支援事業所

平成31年4月に1名増員され、4名体制となりました。各自が目標を持って自己研鑽に励み、介護支援専門員としての資質向上を図ることができるよう、きめ細かい意見交換や情報共有を行うことで職員全員が研修内容を把握することができました。稼働率100%を達成できるよう各自の持ち件数を確認しながら、新規受け入れを行っていましたが、年度途中で職員のケガや病気、異動等により受け入れが思うようにできず、稼働率増につなげることができませんでした。大変な時期もありましたが各職員が協力しながら業務を行い、かろうじて報酬減算は避けることができました。

1. サービスの質の向上

介護支援専門員協会や関連事業所から送られてくる研修を職員全員に周知し、自ら積極的に参加するよう意識統一を図りました。しかし、職員の怪我や病気のために通常業務をまれなく行うことで精一杯だったことや、新型コロナウイルス感染予防のために予定されていた研修が次々と中止になってしまったことから、ほとんど研修参加をすることができませんでした。質の高いケアマネジメントの獲得については、自身のケアマネジメントプロセスを振り返る機会を作りました。良い点や課題、気付きについて各自が確認することで、改めて自分のケアマネジメントプロセスについて見つめ直すことができ、有意義な勉強となりました。事例を用いて相談援助技術に関する勉強会が行えなかった為、令和2年度は実施できるよう計画します。

2. 組織の活性化

一年間予想だにできなかったことが沢山ありましたがその都度、職員間で問題や改善すべきことについて話し合いを行い、互いに協力しながら業務をすることで意識統一を図れ、絆も深めることができました。また話しやすい職場風土作りを心掛けることで個々の悩みや課題等の解決に繋げることができました。

3. 人材の育成

今年度は1名新職員が配属されましたが指導する職員が負担とならないように各職員が対応・指導を行った為、指導担当者も業務に支障なくできました。法定研修に2名参加しましたが変わりゆく制度の内容や共通認識しておきたいことについて伝達講習を行い、専門職としての知識向上を図れるように努めました。

4. リスクマネジメント

介護支援専門員の義務として厚生労働省令で定められている基準に基づいて業務を行うことの大切さを各職員に注意喚起を行いながら、運営基準減算項目について職員間で定期的に確認し、報酬返還等にならないよう意識付けをしました。職員の異動に伴う他居宅への引き継ぎの際にはクレームやトラブルがないように説明や対応方法等について検討・実施することで問題なく終えることができました。

5. 防災対策

昼間・夜間・土砂災害を想定した施設内における防災訓練に参加しました。法人内での災害時の対応や避難援助の方法を学ぶことで実際の動きを想像することで認識を深めることができました。

5. ケアハウス

要支援者の多いケアハウスでは、皆さんが好んで楽しめるような個別の作品作りや複数の行事等、活発なリハビリを企画・参加推進し、介護予防に力を入れました。稼働率については、ご夫婦部屋の入居者様が退居されたのですが、夫婦での入居希望者が少ないことや、入居のタイミングが難しいことから、退居から次の方の入居までの間が空いてしまい、稼働率100%を達成することができませんでした。また、今年度は2名の方が生活保護受給者となりました。手続き等、関係機関と連携を取り、速やかに対応したことで、経済面での安心を獲得することができました。

1. サービスの質の向上

〈相談〉 要支援者の在宅サービス利用が乏しい面においては、ご家族のインフォーマルな支援等のご協力をいただき、入居者の安心・安全な生活を保つことができました。また、夫婦部屋の入居希望がない中、他職種からの情報を活用し、新しい方に入居して頂けたことから稼働率の向上に繋げることが出来ました。

〈介護〉 自立支援を妨げるような介護を安易に行わず、言葉かけや、傾聴に重きを置き、極力ご自分の機能を生かしていただけるよう努力してまいりました。介護予防の取り組みとして、百歳体操やレクリエーションに加え、軽体操、カラオケ、書道、華道の教室を毎月開催しました。また、四季を楽しめる「オリジナルの作品作り」の提供にもチャレンジし、入居者様の能動的・意欲的に取り組まれる姿が見られました。

2. 組織の活性化

連絡調整会議では様々な入居者の情報を提供し、他部署の専門職からもアドバイスをもらうことができました。また、体調不良や身体機能低下等で入居者の中に長時間職員の見守りが得られないことに不安がある方が発生した場合、夜間宿直者や休日日直者に口頭や書面にて情報提供を行い、問題や対応がわからず困るといったことが発生することなく、多くの職員で入居者の安定した生活の継続を保つことができました。

3. 人材の育成

介護予防について職員同士で勉強会を行い、必要性や効果について十分に理解することができました。介護予防に資する体操や運動では、既存のメニューを入居者の身体機能で可能な体操や運動の形にアレンジをするために、高齢者の身体特性について検討し、結果を共有するプロセスを学ぶことができました。

4. リスクマネジメント

廊下の天井からの雨漏りについては、雨漏り箇所が不明で修理が頓挫していたのですが、今年度は天井の広範囲に修理を行ったことで一切の雨漏りがなくなりました。廊下に漏れた水で、滑って転倒するという危険な環境が発生しなくなったことで、入居者の安全を確保することができました。

5. 防災対策

年間3回の避難訓練では、ほぼ全員の入居者様が参加されました。また、防災の知識も備えていただく為に、クイズ形式での勉強会を実施しました。勉強会では実際の生活を想定した質問が活発に発言され、実りあるものとなりました。

苦情状況

発生日	内容	対応
なし		

※参考資料

(1) 入居者の実態

①要介護度及び出身地

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	2	1	6	4	1	0	1	0	14
岡山市	0	0	0	1	0	0	0	0	1

②年齢構成（最高年齢：96歳、最少年齢：69歳、平均年齢：87.4歳）

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	0	1	0	0	2	1	0	4
女性	0	0	0	1	0	3	7	11

③ 在籍年数（平均 3 年 1 か月）

年数	1 年未満	1 年以上～ 3 年未満	3 年以上～ 5 年未満	5 年以上～ 8 年未満	8 年以上～ 1 0 年未満	1 0 年以上
人数	4	8	1	0	0	2

④ 入退居状況

退居者数 4 名（長期入院：1 名、他施設入所：3 名）

入居者数 4 名

(2) 懇談会開催状況

開催日	懇談内容	出席者数	出席職員数
令和元年 6 月 12 日	防災について・協議事項	12	5
令和元年 9 月 18 日	便秘について・協議事項	11	5
令和元年 12 月 18 日	夜間の転倒について・協議事項	12	5
令和 2 年 3 月 11 日	新型コロナについて・協議事項	12	5

(3) 行事活動実施状況

実施月	実施内容
4 月	お花見ドライブ&外食
5 月	バーベキュー、エンドウの収穫、健康診断
6 月	バラ園の見学・外食、懇談会
7 月	外食、フルーツバイキング、寿司パーティー、避難訓練
8 月	そうめん流し、かき氷
9 月	デザートバイキング、懇談会
1 0 月	さんまの炭火焼き、ふれあい祭
1 1 月	紅葉見学&外食、おやつ作り、芋ほり
1 2 月	特養クリスマス会、ケア忘年会、懇談会
1 月	ケア新年会、茶話会、もちつき、初詣&外食
2 月	おやつ作り&茶話会、中華バイキング
3 月	お雛祭り会、握りずし、懇談会

※レクリエーション：週 1 回、百歳体操：週 1 回、買い物：月 3 回、習字：月 1 回（8 月より）カラオケ月 2 回（3 月より）、特養の行事に参加：随時

(4) 苦情状況

発生月日	内容	対応
なし		

6. 地域包括支援センター

地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防のケアマネジメント及び地域ケア個別会議等を通じたケアマネジメント支援などの必要な援助を行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援して参りました。

地域の支援体制づくりとして、昨年度に引き続き小学生を対象に行った認知症サポーター養成講座では、認知症という病気を伝え、家族で支えあう大切さについて考える機会を設けることで地域で暮らす認知症の方々を支援していく体制づくりを行って参りました。また、地域ケア個別会議では年間139ケースを多職種によって検討し、様々な社会資源の活用と介護保険制度内外の適切なサービスに結び付けることができました。

1. サービスの質の向上

部署内にて総社市や社会福祉協議会が行う介護保険外の事業についての情報を共有することで多様なニーズに対して必要な社会資源として活用することができました。また、部署内だけでなく、担当地域における住民主体の会議に出席し、社会資源マップの作成や生活課題の共有を行うなど、地域包括システムの構成メンバーとしての役割を担うことができました。

2. 組織の活性化

施設内での職員交流行事に積極的に参加し、コミュニケーションを図ることで、相談・連携のしやすい環境づくりを行いました。また、施設内研修にて地域包括支援センターの役割について他部署の職員にも周知を行うことで地域の方だけでなく開かれた相談窓口であることを知ってもらうことができました。

3. 人材の育成

月一回のセンター内ミーティングにて困難事例についての対応方法を全職種にて検討していくことで多角的視点にて相談対応できるよう努めることができました。また、各担当者が持ち回りで月一回勉強会を開催し、各個人のスキルアップだけでなく、センター内全体の相談、ケアマネジメントスキルの底上げに努めることができました。

4. リスクマネジメント

市の健康医療課や福祉課、総社市社会福祉協議会等と連携をとり、障がい福祉分野についての情報交換を行い、介護保険外の必要なサービスや支援者につなげることができました。また、訪問時の感染症対策についてはマスク着用、アルコールによる手指消毒を徹底、職員だけでなく、担当利用者の体調を確認しながらの訪問を心掛けるなど感染防止に努めて参りました。

5. 防災対策

常盤地区小地域ケア会議では総社市の危機管理室の方をお招きし、一昨年西日本豪雨災害後の市の防災対策の状況や災害時の対応についてをお聞きするとともに、意見交換を行いました。また、常盤西地区では見守り台帳を修正し、避難時の行動についても高齢者世帯を対象に民生委員の方を中心に聞き取りを行いました。地域の高齢者の状況把握とともに総社市、消防

署との情報共有を行い、スムーズな避難行動が行えるようになりました。

苦情状況

発生日	内容	対応
なし		